

【特別寄稿】

ブエノスアイルス街歩き

この街をもっと見てみよう！

林 正明

(2) スール (一)

ブエノス市で言うスール（南）とは、リバダビア大通り、或いはベルグラーノ大通りから南側（インデペンデンシア大通りから南との説もあります）、リアチュエロ川までの地域全般を指してこう呼ばれています。

したがって、ボーカやボエド、それにサンテルモなどのバリオも含まれていますが、今回はスールの最も代表的と思われるバラークスを中心に街歩きをしてみましょう。

十八世紀の終わり頃、ブエノス港は整備されていなかったのも主にヨーロッパからの輸入品の陸揚げや、輸出されていた皮革や塩蔵肉などの船積みは、ブエノス市とブエノス州の境涯線となっているリアチュエロ川に点在するどれも小さな船着場を利用していました。

これ等の輸出入産品を一時保管する為、船着場の周辺には沢山のバラークスと呼ばれる倉庫が建てられ、これがバリオ名の由来となりました。

更に、水運の便を利用し輸出肉の塩蔵工場や皮革のなめし工場なども出来、港湾荷役や倉庫関連或いは塩蔵工場などで働く労働者、それにお隣のパルケ・パトリシオスに有った屠殺場（千八百七十二年に移転）の人夫などが住みつき、バラークスは雑多で猥雑な雰囲気のある街であったと当時の文書などが伝えています。しかし、現在は残されている僅かな古い建物にその頃の面影が偲ばれる程度で、静かな落ち着いた住宅街となっています。

輸出入産品の保管や荷役は整備されたブエノス港に移り、バラークスの倉庫群の衰退が始まった十九世紀後半、良くしたもので貨物輸送を主体とした鉄道の発達著しくなり、このバリオの一角に当時南米最大の規模を誇った「ソラ鉄道貨物専用駅」が出来、これに付随し英国資本の鉄道関連産業が多数進出して来て、これ等に勤務する高級職員（英国からの派遣社員等）の宿舎などが建てられ、一帯は再び活気を呈しました。

オーストラリア大通りに沿って、この国では珍しい十九世紀の産業革命時代を彷彿させる英国風の集合住宅が一部残されていますが、英国資本撤退後に移り住んだ住民達（主に鉄道関係者）のメンテナンスが悪く、今も人は住んでいますが荒れ果てた茅屋のようになって誠に残念なことです。



「ソラ貨物駅」のすぐ近くに近郊鉄道七線の一つ「南ベルグラノー線」の「ブエノス・アイレス駅」が有ります。



ウイークデいの昼下がり、人も少なく静かな佇まいの木造ターミナル駅舎

駅名からこの町を代表する玄関口となる「メイン・ステーション」の様な印象を受けますが、実はこの鉄道は路線延長も短く、沿線に大きな町が無く、利用客も相対的に少ない為でしょうか、あまり近代化が進んでおらず、ターミナルも現在では貴重とも言える牧歌的な雰囲気の木造駅舎が未だに機能しています。

ターミナル付近に店舗などは見当たらず、市街地と連絡する交通機関は路線バス一系統（五十九番）だけで、勿論地下鉄なども通じていませんので静かで侘しい感じは否めませんが、反面得も言われぬ風情があります。

因みに、この国で熱狂的なファンが多いサッカー（フットボール）は英国人鉄道関係者が持ち込んできたもので、たちまちアルゼンチンの人達の間で広まり、バリオ内だけで十指に余るサッカー・チームが出現しましたが今に残っているのは二チームだけとのこと。

ソラ貨物駅の近く、ベレス・サルスフィエルド大通り（この大通りはエントレ・リオスそしてカジャオと名前を変えながら南のリアチュエロ川と北のリベルタドル大通りを結ぶ大動脈です）にバリオの象徴である「イエス聖心教会」があり、ネオ・ゴチック様式の四角い鐘楼が高く聳えているのが遠くからでも目を引きます。

アルゼンチンのベル・エポック時代に、主祭壇・スタンドグラス・鐘など教会の主な装備品は殆んどフランスから輸入した豪華・絢爛なものです。

バリオの東、昔「長い通り（Calle Larga）」と呼ばれていたモンテス・デオカ大通の周辺はブエノス市の富裕層の菜園や豪壮な邸宅が立ち並ぶ一種の高級別荘地帯となり、西の工業地帯とは対照的な形で発展しました。

この別荘地に、大富豪グレーロ家の大邸宅があり、その令嬢フェリシータは華やかな美貌で当時の社交界の花形でしたが、やはり大富豪の御曹司マルティンに懸想されましたがフェリシータは拒否続け、結果的にマルティンは彼女をピストルで撃ち殺し自分も後を追う悲劇となりました、千八百七十二年初頭のことでした。

両親は娘の非業の死を弔う為、悲劇の舞台となった邸宅を取壊しその跡地に自費で教会を建設し彼女の棺を安置しました。

これが現在のサンタ・フェリシータ教会です。

モンテス・デ・オカ大通りの起点近くに、千八百七十九年に設立され当時「ゆりかごの家(Casa Cuna)」と呼ばれていたブエノス最初の小児専門病院（エリサルデ小児病院）の広い敷地と重厚な建物が望めます。

（はやしまさあき：元アルゼンチン三菱商事、ブエノス・アイレス在住）



悲劇の地に建立された立派な外見のサンタ・フェリシタ教会。
この教会はモンテス・デ・オカ大通りよりコロンビア広場を隔て望めます。

注記：本稿では便宜上以下の西文和訳を採用しています。

Avenida	大通り
Calle	通り
Parque	公園
Plaza	広場